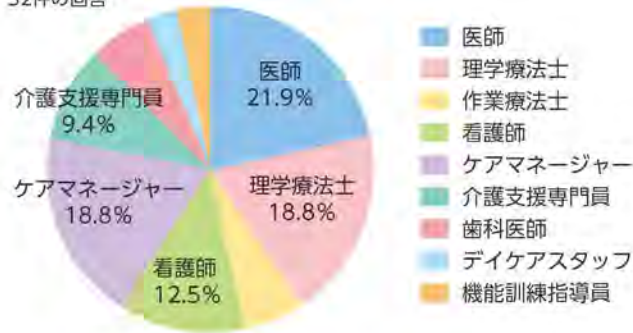


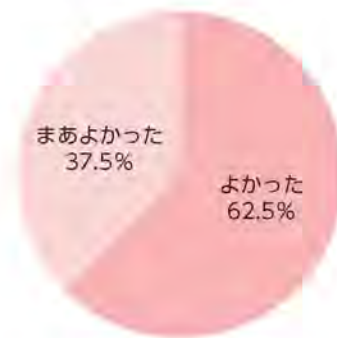
地域医療介護連携セミナー アンケート集計結果

2021年1月30日（土）16:00~18:00（オンライン開催）
参加者：68名

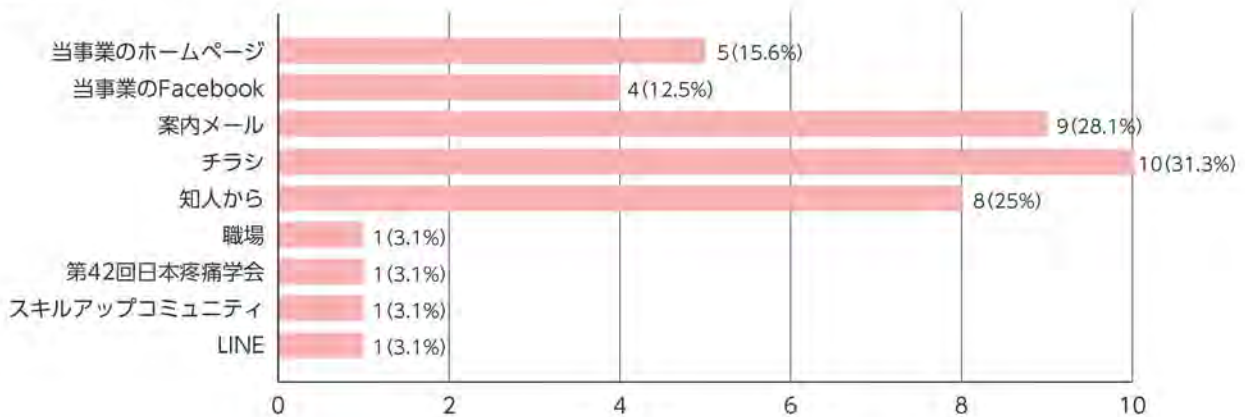
あなたの職種を教えてください。
(兼任の場合は主な業種を1つ選択してください)
32件の回答



今回のセミナーの感想をお聞かせください。
32件の回答



このセミナーをどこでお知りになりましたか？（複数回答可）
32件の回答



■本セミナーについてご意見・ご感想

- ・まだまだ介護領域の方々の本音、要望が聞けるような会にしたいと思います。
- ・他職種の慢性疼痛の取り組みの工夫が学習でき非常に参考になりました。
- ・医師だけでなく、他職種の医療者の方からお話を聞けて大変参考になりました。
- ・地域でのリハビリなどについてよくわかった。
- ・分野は違いましたが、口腔顔面痛の勉強をしているので患者さんとのコミュニケーションの取り方、言葉の在り方などは大変勉強になりました。
- ・地域包括ケアシステム、介護保険の持続性の確保が叫ばれる中、いかに高齢者の方々に健康寿命を保つ

- ・いただくかと頭を抱えております。本日は中塚先生をはじめ、諸先生方に有意義なお話を伺って大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・医療と介護の連携が大事だと再度確認できました。
- ・心理社会的な面から疼痛を訴える方が多く、黒い言葉を聞く場面も多いです。返答が難しいと感じる事もあり岡山先生のお話は大変参考になりました。
- ・それぞれの具体的な取り組みがよくわかりました。
- ・講演数が多く、色々な話を聞けて良かったです。講演時間が短かったので講演数を減らしてもいいので各セッションの時間を長くしてほしいです。
- ・痛いから何もできない気持ちを共感し痛いけど少し

できたに持っていけるよう気づかせ、言葉がけをし支援していきたい。そのためには本人の言うことをしっかり聞き取ることが大切だということがよくわかりました。多職種連携も大切だと改めて感じました。ありがとうございました。

- ・泉佐野市から参加させていただきました。ケアマネージャーとして日頃から医療関係の先生方にはお世話になっております。ズームでの参加は初めてだったのですが、コロナ禍において研修会等の開催も少ない中、本日の企画・開催をしてくださったことに感謝しています。今後ご指導よろしくお願います。
- ・末期がんの利用者さま、また慢性疼痛をお持ちの方にとって、癒しの部分や理解者（医療と介護で関わる関係者や身近な周囲の方）がどのように接するか？によって、受け入れの拒否や、適切な治療の拒否など人生の選択肢にまで影響してしまうことを教えていただきました。
- ・利用者、家族さん等、ケースの1人1人に丁寧な対応、先生の話で出ていた黒い意見（考え）に対応できるような相談支援ができればと思います。
- ・疼痛について第6のバイタルサインであることや、患者と一緒に運動や生活を作り上げることなど多くの学びがありました。なかでも患者との信頼関係の構築が最も大事であることも再認識させていただきました。どこまで行っても一人一人を大事にする関わりをしていきたいと思いました。
- ・この度はとても有意義な講演をありがとうございました

■今後どんな企画を希望されますか

- ・在宅医療、訪問看護師、ソーシャルワーカーさんの困っていることなど。
- ・困難事例の解決など。
- ・ケーススタディー。
- ・記録ツール“F-SOAI”について。
- ・投薬の選択をどのように行っているかや投薬に基づいたリハビリの注意点など。
- ・本日の【痛み】についての講義は高齢者のほとんどの方々の日頃から抱えていらっしゃる問題で、たいへん参考になりました。モニタリング等でも今後どのように接していけば良いかの指針となります。日頃、医療関係の先生方とあまり関わらせていただくことが少ないので、今後も今回のようなセミナーの企画をしてくださることを期待します。

した。

- ・中塚先生の話は参考になった。
- ・痛みの破局化についてきけて良かった。そこについてもっと詳しく知りたいと思った。
- ・疼痛について他職種の先生からの関わりや知識をお聞かせいただき参考になりました。
- ・痛みを持つ患者様への治療法や対応方法、又リハビリなども今まではこれでいいのかなあ…と思っていた部分も理解することができました。
- ・少しの言葉・質問の仕方の違いで、痛みを持つ方の気持ちの方向を変えることができる事があるということを教えていただきました。
- ・忘れていた大切な事であり、初心に振り返り添ってまいりたいと思えました。ありがとうございました。
- ・いつもお世話になっております。どのテーマもとても分かりやすかったです。慢性疼痛は仕方ないもの、という見方しかできていなかったと気づきました。痛くても〇〇できた、という視点、ケアマネこそしっかり持っていないといけない、ということと、どの職種の方もがとても粘り強く訴えに向き合っておられることがわかりました。
- ・セミナーありがとうございました。
- ・連携して治療にあたるチーム医療が行える体制が取られている事が良く分かった。痛みを苦しんでいる方にとって励みになると思います。
- ・メチコパールやユベラが、意外と効くということに驚いた。

- ・在宅医療介護で、望む希望（余命の短い方）痛みへのケアと癒しのケアの好事例など事例を検討できるような企画があればと思います。
- ・日々、患者さんにどのような経過的評価をされているか？ vas以外で。
- ・痛みの破局化について詳しく知りたい。そのアプローチとして、認知行動療法などは時間がかかり通常診療ではつかいにくい気がするので、それ以外の方法などあれば知りたい。
- ・ALSなど神経難病をかかえている患者様へのかかわり。
- ・症例報告もお願いしたく思います。
- ・難病（小脳変性症）について勉強したい。

⑥ 「歯科・口腔外科領域における痛みのとらえ方と集学的診療の必要性」

令和2年度 厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-

「歯科・口腔外科領域における痛みのとらえ方と集学的診療の必要性」

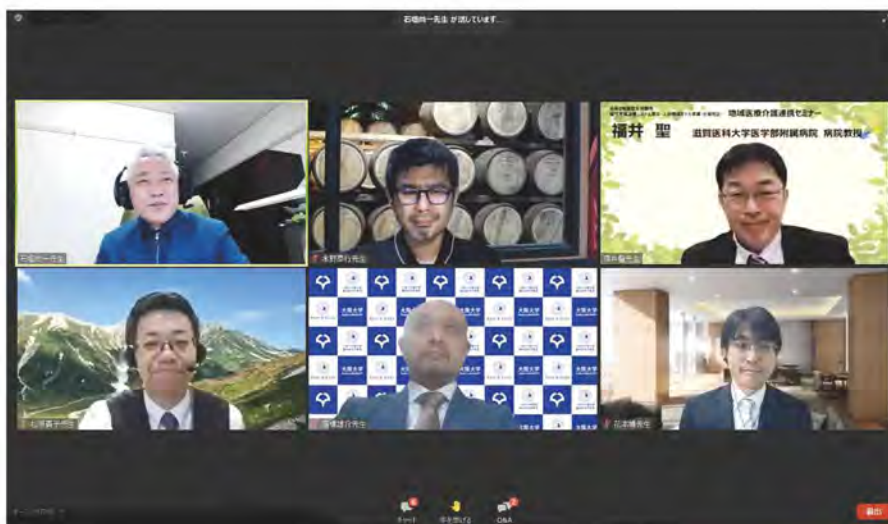
2021年
日時 2月7日 14:00-17:00 参加費
無料

開催方法：オンライン中継 (zoom)

14:00~14:10	開会の辞 「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業について」 福井 聖 (滋賀医科大学医学部附属病院 病院教授 モデル事業代表者)
14:10~14:35	「歯原性疼痛」 高橋 雄介 (大阪大学歯学部附属病院 講師)
14:35~15:00	「歯学部附属病院ペインクリニックにおける痛み治療」 花本 博 (大阪大学大学院歯学研究科 講師)
15:00~15:25	「歯科領域における慢性疼痛診療の実際と限界」 石垣 尚一 (大阪大学大学院歯学研究科 准教授)
15:25~15:30	休憩
15:30~16:00	「歯科・口腔外科領域における慢性疼痛に対する心療内科学的対応」 水野泰行 (関西医科大学心療内科学講座 診療講師)
16:00~16:30	「歯科・口腔外科領域における慢性疼痛に対する運動療法の意義」 松原貴子 (神戸学院大学総合リハビリテーション学部 教授)
16:30~16:55	総合討論・質疑応答
16:55~17:00	閉会の辞 石垣 尚一 (大阪大学大学院歯学研究科 准教授)

申込方法
「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-」
のホームページ(<http://painkinki.html.xdomain.jp/>)
もしくは右記のQRコード受付フォームから

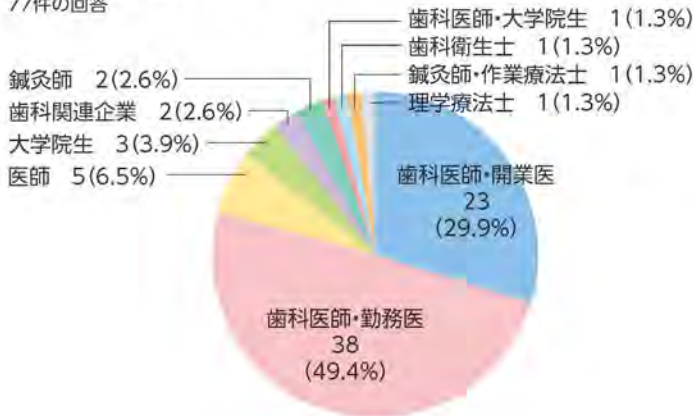
【後援】大阪府、大阪市、滋賀県

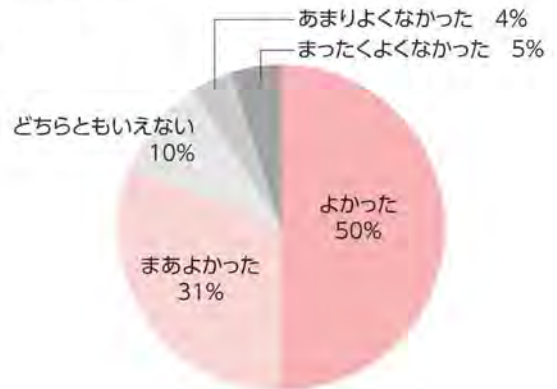
歯科・口腔外科領域における痛みのとらえ方と集学的診療の必要性 アンケート集計結果

2021年2月7日（日） 14:00～17:00（オンライン開催）
参加者：96名

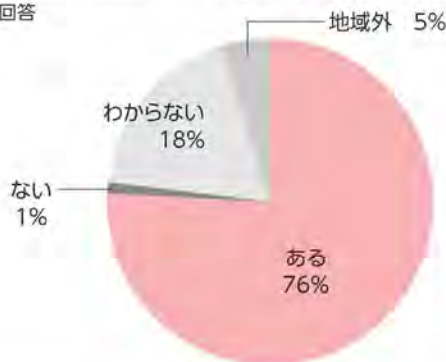
あなたの職種を教えてください。（複数回答可）
77件の回答



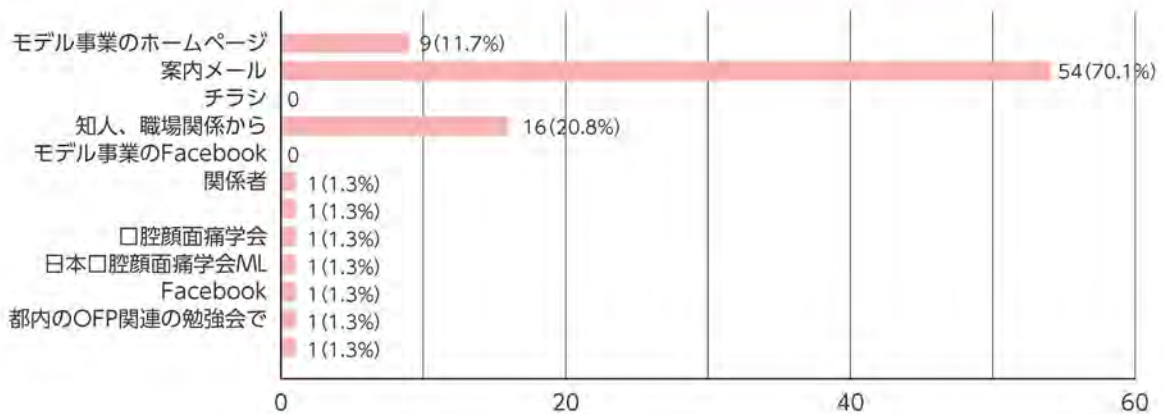
今回のセミナーの感想をお聞かせください。
77件の回答



今後、歯科口腔外科領域における慢性痛診療に関連し、本モデル事業の協力医療機関（25施設）との連携にご興味はありますか？
77件の回答



このセミナーをどこでお知りになりましたか？（複数回答可）
77件の回答



■本セミナーについてご意見・ご感想

- ・非常に重要な取り組みだと思います。
- ・難しい領域だと思います。
- ・自身で治療はできないですが、より多くの情報を得て、もっと知識を得ないといけないと感じました。
- ・歯科治療前から医科歯科連携、治療後も医科歯科連携。
- ・まずは今後もこのような啓発活動をいただけますと幸いです。よろしくをお願いします。
- ・現在精神病院で勤務しているが精神科入院患者の中にも口腔セネストパチーの患者は存在しており、精神科医との連携が取りやすくとでも診療がしやすい。過去に総合病院で勤務している際もフットワークの軽さがスムーズな治療介入に役立つことが多かった。歯学部大学病院だとなかなか連携が難しかったり、患者のキャラクターに引っ張られて歯科疾患を見落とされ口腔外科紹介となっている症例も多いと感じている。患者の訴えが神経症的であっても歯科的疾患の除外を行うことは歯科医師として必須であるし、歯科領域以外の疾患を疑う場合にスムーズな専門医との連携が望まれ、集学的診療にとっても期待しています。
- ・個々人で口腔顔面痛の理解を深めるのが大事だと思います。
- ・慢性痛自体が歯科では知られていないので広めてほしいと思います。
- ・大変勉強しました。
- ・歯科ではない医科や他の専門領域の話は参考になります。
- ・今後ますます深まっていくことを期待します。
- ・医科との連携が深まり、良いとおもいます。
- ・お疲れさまでした。勉強になりました。うまく運動療法を使えるようになったらと思います。
- ・多職種と同職種の連携が必要と思われました。
- ・全身の運動療法について感銘をうけました。
- ・理学療法士との連携の重要性を感じた。
- ・大学病院にいますと、医科も歯科も診療科が縦割りで、臓器別であったりして、とても集学的な診療はできません。悩ましいです。
- ・各地域での診療における連携をどんどん進めてほしい。
- ・重要だと思います。
- ・本日教えていただいた運動療法についてさらに勉強

してみようと思います。

- ・疼痛に関しては現実的には医科と連携がとりたくても困難な場合も多いと思います。国を挙げてこうした事業に取り組んでいることに好印象を抱いています。
- ・歯科にてリハビリを行う上で診療報酬など算定方法など具体的に教えていただきたいです。
- ・対応に苦慮する患者さんを多職種で連携できるのはよいことだと考えています。
- ・脱力方法など非常に参考になりました。
- ・医科や理学療法、開業医と大学病院などの連携がより密に、垣根が低くなればいいと感じた。
- ・必要性を拡散していく必要がある。
- ・集学的治療が行える医療機関が増えてほしい。
- ・多くの見地から患者さんの痛みを改善してあげられることが昔の歯科教育に無かったことなのでこのまま発展していったら欲しいと思っています。
- ・特発性歯痛やBMSは歯科単独では管理できないことが多いので、集学的治療は必須だと思います。
- ・多くの開業医に知識の普及を行うことが大切。
- ・ブロックやハイドロリリースのところをもう少し詳しく聞きたかった。
- ・協力していきたいと思う。
- ・難治性の慢性疼痛治療において集学的診療は是非とも必要な知識・状況だと痛感しています。本日の講演は非常に役に立ちました。ありがとうございます。
- ・慢性疼痛の人材育成プログラムの対象に歯科医師が入っていないプログラムや大学があるのも現実なので、歯科の参加が広がるといいと思います。
- ・運動療法について、良いとは思いますが痛みのしんどさから取り組めないといった患者様が多いため、きっかけになればとまずは本日の情報についてお伝えしていきたいと思いました。
- ・口腔顔面痛学会としても、これまでの口腔顔面痛治療（急性痛を含む）と慢性痛の治療は同一ではないことを表に出してゆく必要がありますね。
- ・理学療法士との連携がはかれるように、保険の改訂が行われるといいと思う。
- ・理学療法、心療内科的アプローチを勉強して取り入れることが重要。
- ・日常診療の中でも、以前と比較し、原因不明の痛み

を訴えるような患者さんが増えてきているため、ぜひ今後も情報を頂けたらと思います。

- ・運動療法の保険算定が出来るようになれば良いと思っています。
- ・運動療法の効果についてとても良い内容でした。MGIについてもなるほどと理解できました。集学的診療の必要性も理解できました。あとは地域における具体的連携システムの構築のプロセスをご教示いただけたらと思います。
- ・そもそも集学的診療なしにはできないものと認識しているので、今後ますます必要になるのではないかと。
- ・歯科口腔外科領域の非歯原性疼痛に理解のある心療内科を教えてください。
- ・心療内科医は症状改善しない例への対応をもう少し話して欲しい、心身医学的対応が述べられたが、実質歯科口腔外科医にはできないことが多いように思う。歯科口腔外科の安易な外科的治療がどれだけ精神科、心療内科の治療導入を難しくしているかを、もっと強調して欲しかった。
- ・このような考え方が開業されている歯科医師の先生方の多くに理解される事が望ましいと思います。
- ・今後ともご相談できる窓口があると助かります。
- ・口腔顔面痛で診断がつけられない、また、薬物療法で対応していても難治性を呈する場合の引き出しが、今まで精神科、心療内科的な対応しかないものと思いついていましたが、より多くの科が集学的に対応しなければならぬものであることを認識しました。施設の数や連携の密度（しやすさ）、コメディカルのスタッフ数などの医療資源などから、診療する地域で差が生じてしまう分野になりますが、目の前の患者さんに還元できればいいなと思います。
- ・慢性疼痛の患者さんは歯科だけでは難しいと日々考えていますが、痛みセンターのような他科との協力体制がとれている所は少ないのではないのでしょうか？必要性は強く感じます。
- ・治療開始以前の除外診断が重要と考えます。
- ・関係学会を中心として偏らず発展してもらいたいと思います。
- ・口腔内の診断には、ゆっくりと時間をかけています。取り敢えず痛みを取るために抜歯を選択することはあり得ません。抜歯は、術者としても泣く泣く最後の手段として施行しております。根管治療は、現実的にはその複雑さから疼痛の除去を含めて非常に困難

なことの多いものですので、歯科治療の困難さの或ることを他科の先生にもご理解いただきたいです。慢性痛に関しては、他科の先生と十分な連携を取ることの大事さが痛感されました。ご講演有難うございました。

- ・非歯原性疼痛が疑われれば不可逆的な処置を行わないことだけを心掛けてきましたが、大学病院などを紹介してもいかれる方は少なく、無力感を感じていました。メンタル的なアプローチや運動療法などを取り入れていきたいと思っています。それですぐに効果が表れるとは思いませんが、患者の信頼を得て専門医への橋渡しができるのであれば嬉しいことです。
- ・歯科医師は急性痛を診ることが多く、慢性痛に対しては慣れていないと思います。まず歯科医師にどのように慢性痛への対応を知ってもらうかですね。患者—歯科医師間が重要になるわけですから、歯科医師の全体的なスキルの向上にもなると思いますし、集学的治療を他科と行うには歯科医師のスキルを高めなければいけませんね。難しい患者さんは少なくはなく集学的診療が一般的になるよう願います。
- ・口腔顔面痛、難治性の方は心理社会的なアプローチが必要であり歯科と他科の連携が強化出来るような場（リエゾン外来）が多くできればよいと思います。今回のような歯科、医科、療法士の先生方をつなげるようなセミナーがまた開催されることを楽しみにしております。
- ・今後もこういったセミナーを期待しております。
- ・単科では解決できない問題に対して、多方面からのアプローチと情報共有で解決できる可能性を感じました。鍼灸師になる前は作業療法士として徒手医学研究会で「痛み」の勉強をしていましたが、今回、大阪大学歯学部歯科麻酔科研修生として研修させていただいていますので、歯科・鍼灸・運動療法等の観点から問題解決の糸口が掴めればと考えています。
- ・まだまだ集学的診療の土俵に乗っていないと感じます。このようなセミナーによる歯科医師の啓蒙は重要と考えます。
- ・慢性疼痛を持つ患者さんは多くはドクターショッピングをされており、ご家族がネット検索で調べたりして来られます。心理的にこじれているとみられる患者さんも多く、すでに相当疲れておられ、あまり遠くの病院へ御紹介しても拒否される場合が（また

は既に行っていたり) あります。そういう患者さんにも行きやすい、また迷わないように、組織化されたネットワークは重要と思います。今後ともこういう試みが広がっていくことを期待します。

- ・慢性痛、外傷後三叉神経ニューロパチーは医原性によるものも少なからずあり、ケアには少なからずあり、ケアには集学的アプローチが重要と考える。
- ・今後とも更なる発展を祈念致します。
- ・大変勉強しました。
- ・医科歯科連携の促進が重要。
- ・多職種連携の中の歯科医の役割の提言と、同職種連携の中での私たちの役割について九州では取り組んでおります。
- ・いろんな業種が連携することが患者にとっての利益につながると思いました。

■ご質問など

- ・本日は大変勉強になりました。企画をして下さった先生方には感謝の気持ちでいっぱいしております。ありがとうございました。
- ・昨年に続き、大変勉強になりました。九州でも頑張っていきます。
- ・みなさま素晴らしい講演でしたが、自分には知っている事でしたので、少し評価が低くなり申し訳ありません。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・松原先生のスプリントに対する突っ込みは的を射た意見で大変すばしかったです。
- ・石垣先生がよく聞こえるようになってよかったです。
- ・歯科でも多職種連携を進めてゆく必要があります。
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。いつもながら自分の浅学ぶりがあからさまになり、気持ちが引き締まります。
- ・関東で心療内科で水野先生のように慢性疼痛を診察している先生はいらっしゃいますか？
- ・今回の動画をオンデマンドでも視聴したい。
- ・本日はありがとうございました。石垣先生はじめ関係された先生方に感謝いたします。前回に続き参加させていただきました。前回、柴田先生にご紹介いただき北原先生のところに見学に行かせていただき、今年の顎関節学会で石垣先生、精神科の宮地英雄先生とともに講演いただくことになりました。現在の歯科の大きな問題として、とりあえず歯を削ると

- ・ガイドラインが必要。
- ・心療内科、ペイン、理学療法などとの連携は必要だと日々感じています。
- ・集学的に対応すべきです。
- ・歯科、医科の連携の大切さを改めて認識いたしました。
- ・特殊な領域ですが患者数は多いと感じます。
- ・とても興味深いです。
- ・一つ一つの講義時間も良く、質問も聴けてよかったです。配布資料も臨床に活かす復習になるので無料セミナーとは思えないくらい有意義でした。
- ・(頭痛学会所属歯科医) 歯科でもtacs等診ることもあり神経内科を紹介しますが連携が進むと良い。
- ・治療の限界というのをよく理解できました。
- ・理学療法との連携を深めていければよいと思います。

というのはなんとかしたいですね。今後ともよろしくお願いたします。

- ・コロナ禍にもかかわらず勉強する機会をいただき、ありがとうございました。
- ・松原先生最高です。初めてお話をお聞きしましたが、先生の語り口で病状や方針の説明を受けると、落ち込んでおられる疼痛の患者さんは光を見られるのではないのでしょうか。ちなみにマウスピースですが悲しいかな歯科保険点数的にこれだけが無く、いわゆる顎関節症に対して歯科では点数の取れるところが他にありません。私も疼痛主訴でそんなものを入れることは無いのですがその場合ほぼ毎回患者さんのお話を聞き顎口腔エクササイズの指導をするだけでは点数にならずこの系統の患者さんにはほぼボランティア状態です。それゆえ一般的にはまずマウスピース咬ませておけになっている気がします。そして歯科医の私が慣れない運動療法を指導するより的確に指導ができる理学療法士、運動療法士のいる機関や診療所への紹介の道筋ができ、それが一般歯科医で情報共有できるようになれば良いと思います。
- ・ご準備お疲れ様でした。昨年に続き充実した内容でした。九州で実施するときの参考にさせていただきます。
- ・協力医療機関の選考基準ってどんなものだったのでしょうか？

⑦ 「第2回開業医・リハビリテーション療法士セミナー」

令和2年度 厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-

第2回 **開業医・リハビリテーション療法士セミナー**

2021年2月13日(土) 17:00~19:00

場所: グランフロント大阪ナレッジキャピタルカンファレンスルーム
タワーC RoomC05 / オンライン
(会場参加20名限定)

アクセス 

タイムスケジュール

16:30~ 受付開始 総合司会: 田中 浩一 (田中整形外科 院長)

17:00~17:10 ① 「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業」について
福井 聖 (滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科 病院教授)

17:10~17:40 ② 開業医における慢性痛診療のシミュレーション&解説
~腰痛バージョン~

17:40~18:55 ③ ディスカッション
進行 中塚 映政 (なかつか整形外科リハビリクリニック 院長)
阪上 学 (さかうスクリニック 院長)

慢性痛の要因には複雑な心理・社会的背景が絡んでいる場合があります。このような場合、医療者の対応の良し悪しが診療の流れを左右します。参加者の皆さんとシミュレーション動画をみながら、患者さんに誤解を与えない適切な説明テクニックや、医師だけに負担をかけずに職員全員で対応する効率的な方法などを、解説しながらディスカッションしたいと思います。

18:55~19:00 ④ 総括 柴田 政彦 (奈良学園大学保健医療学部 教授)

※代表機関の新型コロナウイルス感染拡大防止対策指針に準じてセミナーを開催いたします

お申込み

「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-」
ホームページより (<http://painkinki.html.xdomain.jp>)
または右記QRコード登録フォームよりお願いします。


申込フォーム

共催: 滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科
後援: 大阪府医師会、大阪府、大阪市、滋賀県 滋賀県慢性疼痛対策推進事業
大阪府医師会生涯研修システム2.0単位申請中



第2回開業医・リハビリテーション療法士セミナー アンケート集計結果

2021年2月13日（土）17:00~19:00（オンライン開催）
参加者：59名

慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業について
23件の回答



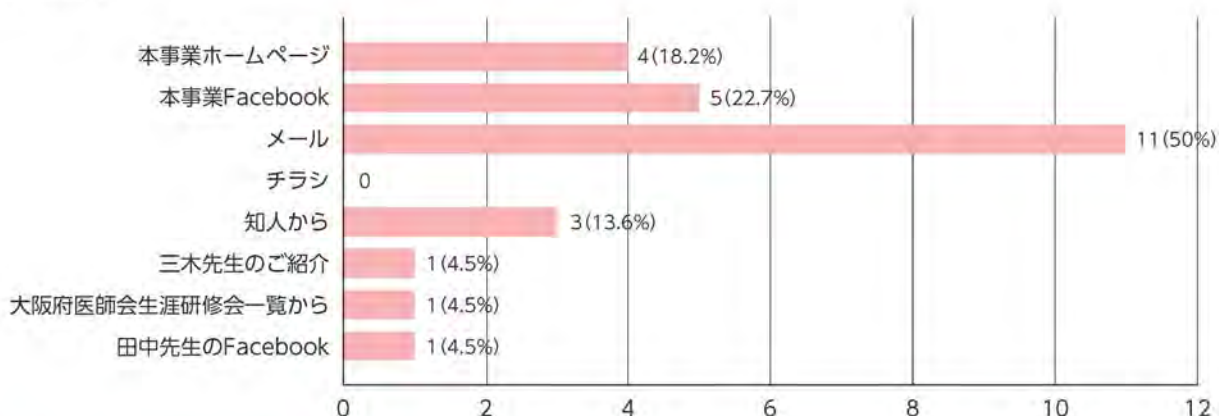
開業医における慢性疼痛のシミュレーション&解説
～腰痛バージョン～
23件の回答



ディスカッション
23件の回答



このセミナーをどこでお知りになりましたか？（複数回答可）
22件の回答



■本セミナーについてご意見・ご感想

- ・全国的な事業になるといいですね。
- ・心因性の疼痛に対して、具体的にどのように関わっているのかがわかり勉強になりました。
- ・具体的な診察対応が見れてよかったです。
- ・多職種が参加しているので、新しい視点を得ることができます。
- ・具体的なビデオをお示しいただきありがとうございました。小グループでも具体的なことを聞けて慢性

疼痛への取り組みのイメージが出来ました。ありがとうございました。

- ・痛みのご専門の先生方のお話しや活発なご意見交換を聞くことができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・多くの先生方が慢性疼痛に真摯に取り組む時代となっていることが理解できました。時代の変化を感じました。本事業や本セミナー等のおかげと思います。
- ・良い例での声かけがよく、参考になった。Zoomを使ったセミナーの進行が参考になった。
- ・慢性疼痛に対する医療者の取り組みや考え方を直接キャッチアップできる良い機会となりました。一方通行の講演ではなく、ブレイクアウトルームに分かれたディスカッションが考えを深めるうえで有効でした。
- ・班別の討論等新しい経験をさせていただきました。ありがとうございました。
- ・症例のビデオは良い・悪いモデルを学ぶのに大変良

■今後のセミナーについてのご要望

- ・理学療法士や医療スタッフ向け、または多くの人たちのかかりつけとなっている開業医内科医師向けにもセミナーがあるとよいと思います。
- ・平日の夜が参加しやすいです。
- ・2時間は手ごろな時間と感じました。
- ・今回のようなタイムスケジュール（土曜夕方）はありがたい。
- ・非医療者でも参加できる場があれば、引き続きご案内いただければ幸いです。広報宜しく願いいたします。
- ・今回のセミナーは実際の診療場面に生かすための学びを得ることができました。以前、慢性疼痛に関する基本的なことを学ばせていただきましたが、例え

■その他

- ・次回はカメラありで討論に参加できるようにしたいと思います。ありがとうございました。
- ・三木先生のお顔を拝見できてよかった。
- ・今回、運営された先生方、貴重な体験をありがとうございました。

い教材だと思いました。

- ・悪い例→良い例のシミュレーション動画をグループディスカッション後にポイントをキャプション入りで再度見返す時間を設けると理解や気づきが増すと思います。
- ・動画はもう少し短い&シーンごとに分割してもいいかも。今はすでに認知行動療法アプローチを実践されている先生が多く参加されていますが、教育、啓発という目的が拡がってくるにつれて、普段のアプローチが動画とは違う医療者にも多く参加してもらうようになった場合、動画の医療面接の情報が多く、見逃す点が多いと感じたためです。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・すぐに臨床に役立てる事、当面の課題、今後目指して行く方向性等をお示し頂き、幸甚です。
- ・また、参加したいと思います。レジメが細かくて老眼には、きついです。もう少し、大きな絵のレジメを希望します。

ば現在進行している法律関係の内容、今後の取組、ネットワークの連携の仕方など、実際面の学びの場を設定していただけると大変ありがたいです。ただ、全体の取り組みを考えていくと、特定の内容を多数の方に知っていただく必要があるでしょうし、例えば、知識に関してはHPに情報を記載していただけるとありがたいです。

- ・シミュレーション動画2つを解説入りでweb上で見られるようにしていただけると、多くの方に役立つのではと思います。
- ・オンデマンド配信もあると助かります。
- ・続けることで、色々な意見を吸収出来ると思いますので、また、参加したいと思います。

- ・心因性疼痛と診断できる根拠は何なのでしょう？心理社会的な困難を抱えた慢性痛患者ととらえる方が正しいのではと思いました。

⑧「心と身体の痛みセミナー『発達障害と痛み—認知特性のある患者の訴えをどう扱うか—』」

令和2年度厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業近畿地区
心と身体の痛みセミナー

『発達障害と痛み—認知特性のある患者の訴えをどう扱うか—』

2021年
開催日時: 2/20(土) 14:00~16:30
オンライン開催 (zoom) 参加費
無料

演題①
14:00~14:30
「明日からつかえるマインドフルネスのエッセンス—
発達特性に配慮した実践について—」
関西医科大学心療内科学講座 上田健斗先生

演題②
14:30~15:00
「認知特性のある慢性頭痛患者の症例」
富永病院 脳神経内科・頭痛センター 後藤あかり先生

演題座長: 神戸松蔭女子学院大学 教授 坂本真佐哉先生
休憩10分

講演
15:10~16:10
「発達障害を背景に持つ慢性疼痛患者の治療ポイント」
まちだクリニック 町田英世先生


座長: 奈良学園大学保健医療学部 教授 柴田政彦先生

質疑応答
16:10~16:30
世話人: 関西医科大学心療内科学講座 加藤文恵

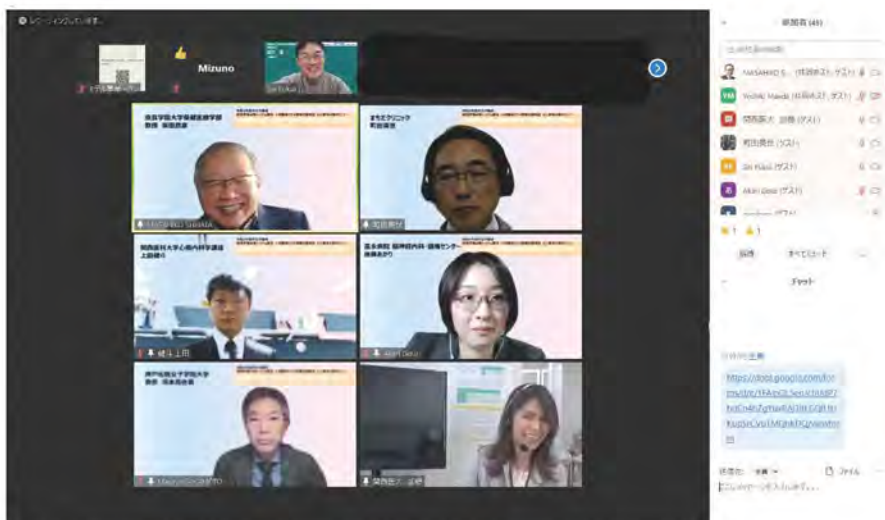
慢性疼痛の治療に興味のある方は職種問わずご参加いただけます。

事前に参加申込みをお願いします

「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-」
ホームページより <http://painkinki.html.xdomain.jp>
または右記QRコード登録フォームよりお願いします。


登録フォーム

滋賀県慢性疼痛対策推進事業

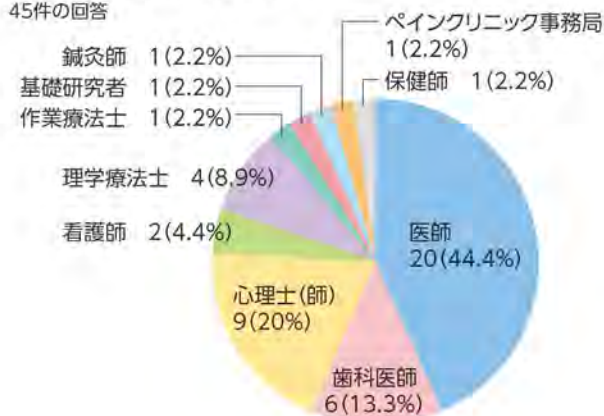


『発達障害と痛み—認知特性のある患者の訴えをどう扱うか—』 アンケート集計結果

2021年2月20日（土）14:00～16:30（オンライン開催）
参加者：57名

あなたの職種を教えてください。

45件の回答



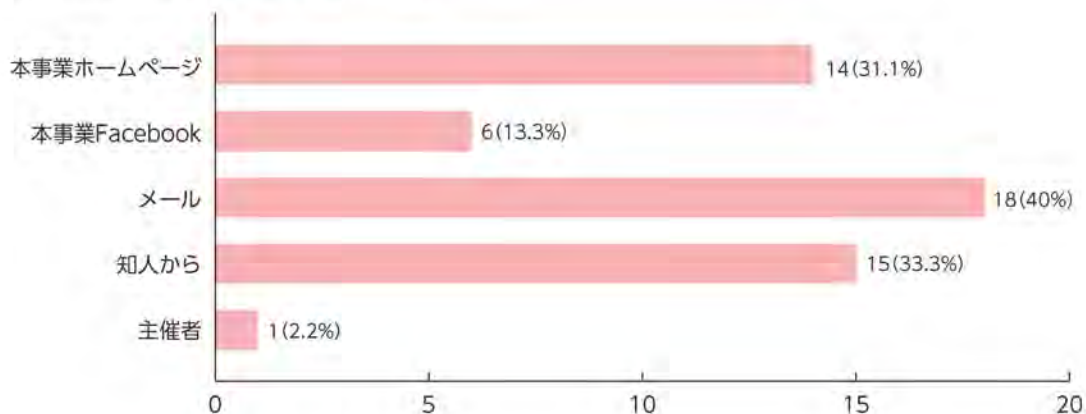
今回のセミナーの感想をお聞かせください。

45件の回答



本セミナーをどこでお知りになりましたか？（複数回答可）

45件の回答



■本セミナーについてご意見・ご感想

- ・発達障害に限定せず、慢性疼痛を訴える患者さん全般に、こだわりの強さや、認知特性の偏りということに気付くことは少なくありません。
- ・最終的には、個人特性に配慮した対応と、医療者としてのゴールを意識した誘導のバランスが大切と思いますが、患者自身に本人の特性を知ってもらうことができるツールが手に入ると良いなと思いました。
- ・症例発表が1例で良いので、もう少し掘り下げてやってほしかった。特に、「何がポイントなのか」が解りにくかった。
- ・テキストの予習プラスワンで参加してよかった。
- ・事例がわかりやすかったです。
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・慢性疼痛の患者に対する発達障害からの視点を教えていただき、大変参考になりました。
- ・生育歴、発達歴の聴取の重要性を認識しました。マインドフルネスの概念から再認識しました。カウンセリングの受け答えもたいへん勉強になりました。
- ・考え方に加えて、実例を踏まえた内容で声掛けなども参考になりました。
- ・いずれのご講演も、具体的で日々の臨床に生かせる内容で、大変勉強になりました。
- ・非常に勉強になりました！ありがとうございました。
- ・発達障害と慢性疼痛の繋がりについてよく理解できました。ありがとうございました。
- ・発達障害からの視点での痛みの介入について、再認

識できてよかったです。

- ・ニッチな分野で大変有益でした。ありがとうございました。柴田先生の、医療者は悪いところを治す、心理専門家は強みを活かすが大変印象に残りました。
- ・勉強になりました。メッセージ性も明確でわかりやすかったです。
- ・ご講義に加えて質疑応答、チャットでのやりとりからも非常に多くのことを学ぶことができました。本日の学びを臨床に生かしていきたいと思えます。
- ・慢性痛診療において、発達障害（神経発達症）として心身相関の気付きに乏しく、認知特性として視覚優位（＝言語的理解が弱い）なケースなら、ビジュアル的ツールを利用していくことも検討してみたいと思えます。
- ・町田先生の講演すばらしかったです。
- ・さまざまなお話を聴けて大変役立ちました。ありがとうございます。
- ・とても学ぶことが多かったです。ありがとうございました。
- ・とても有意義でした。ありがとうございます。一つ、我が家の電波が悪くてスマホで参加していたのですが、演者が講演中に画面の中にチャットの質問が大写になるので集中が難しかったです。質問は出来れば後にまとめたほうが演者にも失礼がなくて良いのではないのでしょうか。
- ・じぶんじしんの性格の偏りについて…同意するところありました。

■今後のセミナーについてのご要望がありましたらご記入ください。

- ・マインドフルネスと禅との関係。西洋文化とは異なった歴史・文化背景を持つ日本でのマインドフルネスへの取り組み方。
- ・町田先生の後半にお話しがあった就労支援の資源。
- ・今回のような、特に対応が難しい対象に関するセミナーを希望します。今回とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・マインドフルネスのセミナーや他の心理技法のセミナー等があれば嬉しいです。
- ・次回のテーマも興味深そうで、期待しています。
- ・素晴らしかったです。今後も参加したいです。
- ・本日のセミナー大変勉強させていただきました。本日のセミナーも含め、素晴らしい講演が沢山ありましたので、単に報告書だけではなく、書籍で、学会誌でも良いので、総説などにさせていただけるとさら

- ・発達障害を持つ方々への対応法が具体的でわかりやすかったです。
- ・参考になりました。実は身近に発達障害は多いと感じております。
- ・心理士セミナーとのことでしたが、大変勉強になりました。
- ・具体的で良かった。
- ・1)心療内科、精神科、心理職の方がもっと用いやすい治療技法が紹介された方がよい、
2)治らない慢性疼痛への対応がもっと紹介されてよい。
- ・初めて耳にする専門用語が多いのですが、おかげさまで大変勉強になりました。
- ・訴えのつじつまの合わない方に新たな接し方が出来そうで今後活かしたい。
- ・心理士の先生進め方を学べました。
- ・町田先生の発達障害についてのご説明が大変わかりやすく、対処法も教えていただけて助かりました。
- ・慢性疼痛の患者さんはドクターショッピングが多く、最終的に総合診療科等に通われています。生育歴、親子関係、特性などを踏まえたアプローチの意義を知ることができました。慢性疼痛で薬物に敏感で薬があわれないというケースを見聞きしていましたが、慢性疼痛の特徴の過敏から来ているというお話が経験と重なり納得感がありました。今回はありがとうございました。

に勉強させていただけたと思えました。よろしくお願いたします。

- ・町田先生にもう少し慢性疼痛のリーダーとして、水野先生と一緒に活動していただきたいです。
- ・先生方のディスカッションをお聞きたいです。
- ・来年度も聴講したいです（誤操作でビデオOnにしてしまいました）
- ・続編を希望すると、アウトプットが苦手な発達障害の方が本人の希望を言いやすくなるような質問の仕方なども併せて知りたいです。
- ・非歯原性疼痛と患者の心理との関係。
- ・PDF資料は今後とも続けていただけると助かります。
- ・疼痛の薬物以外のコントロール鍼灸やヨガ、アロマ、音楽等の療法家の先生のお話を聴いてみたいです。

⑨ 「慢性疼痛診療研修会」

厚生労働省令和2年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区- 慢性疼痛診療研修会

共催：一般財団法人日本いたみ財団

日時

2021年
2月21日 日 9:00-12:00
オンライン (zoom) 開催

参加費
無料

定員30名(先着)

司会進行：鉄永倫子先生(岡山大学病院運動器疼痛センター)

9:00~9:25	開始のあいさつ	福井 聖先生(滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科)
	フリアンケート 各グループに分かれてアイズブレイク	
9:25~9:40	1. 痛みの多元性を知ろう！	大友 博之先生(渋谷セントラルクリニック)
9:40~9:55	2. 慢性疼痛の分類:ICD-11を知ろう！	青野 修一先生(愛知医科大学学際的痛みセンター)
9:55~10:10	3. 痛みの多面的評価を知ろう！	鉄永 倫子先生(岡山大学病院運動器疼痛センター)
10:10~10:20	～ブレイクタイム～	
10:20~11:05	4. 痛みの治療を知ろう！ 薬物・心理療法を知ろう！ 運動療法を知ろう！ 手術療法を知ろう！	山田 圭先生(久留米大学医学部整形外科教室) 中楚 友一朗先生(愛知医科大学学際的痛みセンター) 鉄永 智紀先生(岡山大学病院運動器疼痛センター)
11:05~11:20	5. 症例を知ろう！	辻 寛謙先生(岡山大学病院運動器疼痛センター)
11:20~12:00	6. 症例を体験しよう！	鈴木 秀典先生(山口大学大学院医学系研究科整形外科)
	チェックテスト アンケート 閉会のあいさつ 福井聖先生	

【お申込み】「慢性疼痛診療体制構築モデル事業-近畿地区-」ホームページより
(<http://painkinki.html.xdomain.jp>)
または右記QRコード登録フォームよりお願いします。

令和2年度 厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区 令和2年度開催セミナー ～慢性疼痛診療研修会～日本痛み財団共催～



慢性疼痛診療研修会
2021年
日時 2月21日 日 9:00-12:00
オンライン (zoom) 開催
定員30名(先着)

令和2年度の成果
32名(23+9)多職種、多診療科の医療者参加：医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、公認心理士、薬剤師、鍼灸師、多職種、多診療科の先生方に参加いただいた。

いたみマネージャー(PAM)
慢性疼痛診療システムを推進するための人材養成モデル事業の一環として、慢性疼痛診療システムを推進するための人材養成モデル事業の一環として、慢性疼痛診療システムを推進するための人材養成モデル事業の一環として...

今後の課題
近畿地区でも、慢性の痛みの診療にたずさわられる医療者として、厚労省委託、日本いたみ財団認定の、いたみマネージャー、いたみコーディネーターを育成すること、認定医療者を増やすことが必要。必要最低限の知識を共有することで、痛みセンターの医療者、連携医療施設のレベルアップを図ってきたい。1回ではまだまだ不足と考えており、2回施行していきたい。

⑩ 「慢性痛診療連携セミナー“非専門家に知ってほしいインターベンショナル痛み治療”」

令和2年度 厚生労働省
慢性疼痛診療システム・人材養成モデル事業-近畿地区-

慢性痛診療連携セミナー
“非専門家に知ってほしいインターベンショナル痛み治療”

2021年 **2月27日(土)** 16:00~18:20 参加費
無料

開催方法(場所) : オンライン中継 (zoom) のみに変更しました

タイムスケジュール

司会 松田 陽一 (大阪大学大学院医学系研究科 麻酔・集中治療医学教室)

16:00~16:10 ①「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業」について
福井 聖 (滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科)

16:10~16:35 ②「慢性痛の診療連携にインターベンショナル痛み治療を取り入れよう」
松田 陽一 (大阪大学大学院医学系研究科 麻酔・集中治療医学教室)

16:35~17:00 ③「腰下肢痛に対する神経ブロック・低侵襲痛み治療」
渡邊 恵介 (奈良県立医科大学附属病院ペインセンター)

17:00~17:10 休憩

17:10~17:35 ④「高齢者に対するインターベンショナル痛み治療の利点」
高雄 由美子 (兵庫医科大学病院ペインクリニック部)

17:35~18:00 ⑤「インターベンショナル治療と運動療法による肩・膝関節痛の治療」
植松 弘進 (大阪大学大学院医学系研究科 麻酔・集中治療医学教室)

18:00~18:15 ⑥ 質疑応答

18:15~18:20 ⑦ 閉会の挨拶

お申込み
「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-」
ホームページより (<http://painkinki.html.xdomain.jp>)
または右記QRコード登録フォームよりお願いします。


登録フォーム

共催：滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科 滋賀県慢性疼痛対策推進事業
後援：大阪府、大阪市、滋賀県、大阪府医師会



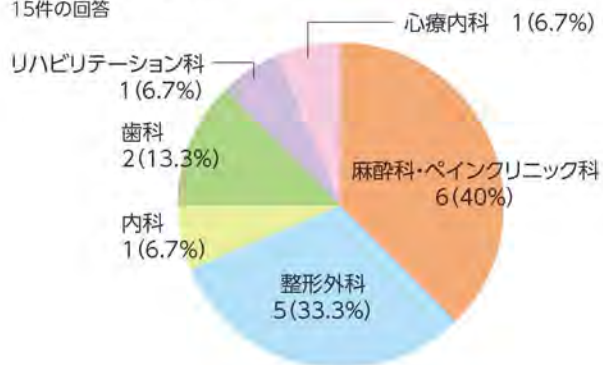
慢性痛診療連携セミナー“非専門家に知ってほしいインターベンショナル痛み治療” アンケート集計結果

2021年2月27日（土）16:00～18:20（オンライン開催）
参加者：29名

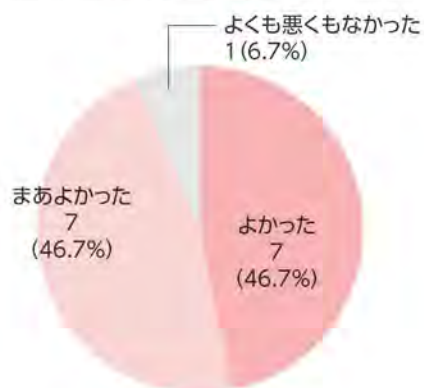
あなたのご職業を教えてください。
15件の回答



診療科を教えてください。
15件の回答



今回のセミナーの感想をお聞かせください。
15件の回答



本セミナーをどこでお知りになりましたか？
15件の回答



■今回のモデル事業セミナーの良かった点を挙げてください。

- ・新しい治療を知りました。
- ・比較的平易な内容でありわかりやすかったです。
- ・よく考えられた構成で、セミナー全体としてのメッセージがわかりやすかった。
- ・痛み治療について整理できた。新しい痛み治療について学べた。
- ・インターベンション治療の有効性を具体的に知ることが出来た。
- ・講義はわかりやすい。
- ・第1番目の福井先生の構想。
- ・ペインクリニックとは何か、を考えてもらう機会だった。
- ・三叉神経ブロックについて知りたかったのでとても勉強になりました。
- ・ペインの先生方がどう診療されているのが分かり、紹介し易くなりました。
- ・初心者にも分かりやすい説明でした。
- ・疼痛専門コンサルテーションの意義。
- ・自分の知らない知見がたくさんあり、為になりました。

■慢性の痛み治療におけるインターベンショナル痛み治療の課題・問題について提言をお願いいたします。

- ・近くのペインクリニックの先生との連携が必要と思いました。
- ・ペインクリニック科以外にはなじみの薄い専門用語の注釈を入れる、などでしょうか。
- ・質疑応答の通り。啓蒙と保険制度の整備が急務。
- ・患者さんを紹介できる施設が周囲に少ない事。
- ・リハビリテーション（整形外科）との連携を上手く図ることで、更に治療効果の向上を期待できるような気がします。
- ・自然治癒なのかインターベンションの効果なのか分からないこと。
- ・セミナー中にも仰ったように、他院や患者さんに認知が広がれば良いと思います。
- ・周知努力不足。
- ・何処で実施されているかの情報が欲しい。
- ・運動療法、薬物療法との兼ね合い、線引きが難しそうですね。安易にインターベンションをやると、患者さんが依存的になりますね。
- ・地域連携。
- ・このような治療がなされている現状を今後も情報発信していただきたいです。

■今後どのような企画を希望されますか。

- ・麻薬の取り扱いに関する議題。
- ・患者に向けたセミナー。
- ・疼痛に対する運動療法、認知行動療法について。
- ・著効例などの症例提示。
- ・仕方ないですがオンラインより場に参加する方がいいですね。
- ・どこまで効くの筋膜リリース。
- ・投与中の薬に対してのブロックの可否を具体的に知りたい。
- ・他科の医師、初心者が分かりやすい企画をお願いします。
- ・最先端の疼痛治療。
- ・事前のスライド資料提供は助かります。

■共催セミナー

⑪「慢性痛に対する認知行動療法 実施者育成研修会」

慢性痛に対する認知行動療法研修セミナー(共催)

主催:一般社団法人認知行動療研修開発センター

- 2020年8月22日(土)23日(日) HB 参加者 60名
 - CBTとは インターネット支援型CBT
 - CBTの適応判断プロセス
 - 第二世代認知行動療法の実際
 - マインドフルネス講習
- 2020年12月20日(日) オンライン 参加者 177名
 - 慢性痛とは CBT導入のプロセス・実演 CBTのエビデンス
 - CBTとは インターネット支援型CBT マニュアルを用いたCBTの実際

CBTセミナー今後の予定と課題

- 2021年5月16日(日)9:30~18:00 オンライン 定員 200名
- 年間2-3回開催予定 2022年度まで
- CBT実施者の養成
- 保険収載
- 効果の検証
- 導入のプロセス、適応判断法の普及



第11回 関西痛みの診療研究会 プログラム・抄録集

2020年12月19日(土)

14:00~17:30

オンライン(zoom)開催

共催：厚労省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-

代表世話人：柴田 政彦（奈良学園大学保健医療学部 教授）

当番世話人：松岡 弘道（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科 科長）

【関西痛みの診療研究会事務局】

奈良学園大学保健医療学部内

〒631-8524 奈良県奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1

TEL: 0742-93-5418

Email: tsukamotoe@naragakuen.jp（塚本）

第11回関西痛みの診療研究会 プログラム

13:30～ 世話人会

司会進行 松岡 弘道先生

14:00～ 開会のご挨拶 松岡 弘道先生・柴田 政彦先生

■一般演題

- ①14:10～14:30 「集学的入院治療開始後に認知機能障害に気づいた症例」
座長：安達 友紀先生（滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科）
演者：津田 清香先生（医療法人篤友会千里山病院）
- ②14:35～14:55 「体育の授業を契機にCRPS様症状を呈した一例」
座長：橋本 和磨先生（兵庫医科大学ペインクリニック部）
演者：渡邊 恵介先生（奈良県立医科大学附属病院ペインセンター）
- ③15:00～15:20 「後期研修医の苦闘、活動量の低下が年単位で続く不動の慢性痛患者の一例」
座長：阪本 亮先生（近畿大学医学部内科学教室 心療内科部門）
演者：和田 秀之先生（関西医科大学心療内科学講座）

■施設紹介 15:25～15:35 市立芦屋病院「痛み止め調整入院」プログラム

休憩

■特別講演 15:45～16:35（質疑込み）

「がん患者の非がん疼痛診療における注意点 ～心療内科医の視点から～」

座長：松岡 弘道先生（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

演者：酒井 清裕先生（近畿大学医学部内科学教室 心療内科部門）

■一般演題

- ④16:40～17:00 「疼痛コントロールに難渋するなかで様々な愁訴が出現した、仙骨骨巨細胞腫の一例」
座長：高橋 紀代先生（医療法人篤友会千里山病院）
演者：樋田 紫子先生（近畿大学医学部内科学教室 心療内科部門）
- ⑤17:05～17:25 「疼痛増強の不安が続く膝痛患者との一例」
座長：渡邊 恵介先生（奈良県立医科大学附属病院ペインセンター）
演者：榎本 聖香先生（滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科）

閉会のご挨拶 柴田 政彦先生（奈良学園大学保健医療学部）

4 ポスター・HP・FBなど



■ポスター（痛みセンター・連携施設・セミナーに2回以上参加して頂いた施設に配布）



”報知器” の誤作動かも



長引いているその痛み、



そもそも痛みは、
 身体の危険を教えてくれる火災報知器のようなもの。
 でも、原因（病気やケガなど）が治った後も
 痛みがおさまらないことがあります。
 それが「慢性痛」、報知器が誤作動を起こして
 鳴りやまない状態です。
 頭痛、歯痛、肩こり、指痛、腰痛、下肢痛、膝痛など。
 長引いているその痛みは、慢性痛に詳しい
 医療機関でないと治療できません。

当院は、「痛みセンター」と連携し、慢性痛治療にあたっています。

厚生労働省の慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業（近畿地区）
 に参加し、近畿地区の痛みセンターと連携して、慢性痛患者さんの診療を行っ
 ています。痛み報知器の誤作動で悩んでおられる方はぜひご相談ください。



近畿地区モデル事業の痛みセンター

滋賀医科大学医学部附属病院／関西医科大学附属病院／大阪大学医学部附属病院／
 兵庫医科大学附属病院／京都府立医科大学附属病院／川崎医科大学附属病院／
 篤友会千里山病院／寿会富永病院



モデル事業 痛み 近畿地区



<http://painkinki.html.xdomain.jp/>



5 各事業の活動まとめ（事業報告会）



1. 本年度の取り組みについて（福井聖）

 慢性疼痛診療システム普及・
人材養成モデル事業セミナー報告会 ー近畿地区ー 
2021.3.14.

「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業、本年度の取り組みについて」



福井 聖



滋賀医科大学附属病院ペインクリニック科病院教授
学際的痛み治療センター



慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 2期1年目(4年目) コンセプト

日本全国8地域

- ・ 集学的痛みセンターの設立、
地域医療機関との医療連携体制のモデルを構築。
 - ・ 痛み診療の人材を育成すること。
 - ・ 診療ノウハウを普及すること。
- ・ 近畿地区モデル事業の特徴；様々な医療関係者が有機的に連携⇒地域全体でチーム医療を支えていく。
One Team チーム力でカバー

慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

令和2年度予算案 87,136千円

【要旨】

平成29年度～令和元年度の3か年において実施した「慢性疼痛診療システム構築モデル事業」において、全国8ブロックで地域のかかりつけ医を始めとした医療機関と痛みセンターの連携モデルを構築した。令和2年度以降は、この体制を活用し、関連する疾病分野の中核的な医療機関に対して、痛みの診療について実践可能な人材の育成を実施し、地域の医療提供体制へ慢性疼痛診療モデルを展開するためのモデル事業を実施する。

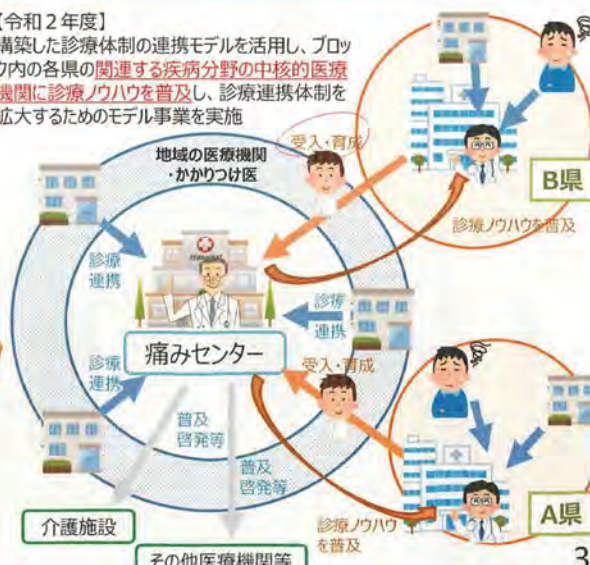
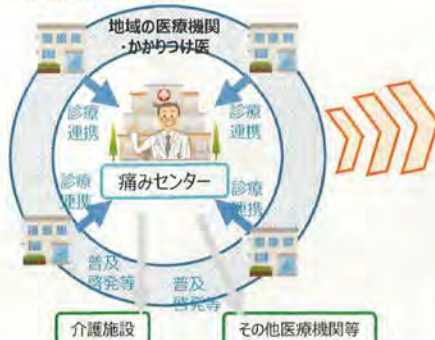
【事業内容】

- ①痛みセンターを中心とした診療モデルの実践
- ②痛み診療の人材を痛みセンターで受入・養成
- ③診療ノウハウの普及
- ④介護施設等の民間向けの啓発研修会の実施

【令和2年度】

構築した診療体制の連携モデルを活用し、ブロック内の各県の関連する疾病分野の中核的医療機関に診療ノウハウを普及し、診療連携体制を拡大するためのモデル事業を実施

【平成29年度～令和元年度】
痛みセンターを中心とした
診療連携モデルを構築



厚労省 慢性の痛み政策研究事業
 研究班 集学的痛みセンター —近畿地区—
 正式認定 2⇒7施設

- type A:
 - 大阪大学医学部附属病院 疼痛医療センター
 - 医療法人篤友会 千里山病院 在宅医療センター
- type B:
 - 滋賀医科大学医学部附属病院 学際的痛み治療センター
 - 関西医科大学附属病院 痛みセンター
 - 京都府立医科大学附属病院
 - 兵庫医科大学病院 ペインクリニック部
 - 社会医療法人寿会 富永病院 頭痛センター

令和元年度 慢性疼痛診療体制構築モデル事業（近畿地区）連携体制

7つの事業により地域・領域ネットワークを構築



スムーズな医療連携⇒慢性疼痛の診療をしていただける

開業医の先生、心療内科の先生方のリストアップとマッピング。
 次年度の課題 ⇒ 慢性痛の診療をしていただける精神科の先生
 方のリストアップをしていきたい。

＜開業医セミナー：コアメンバー＞	
1. なかつか整形外科リハビリクリニック	中塚映政
2. 田中整形外科	田中浩一
3. さかいペインクリニック	酒井雅人
4. さかうえクリニック	阪上学
5. てんじん整形外科リウマチ科	史賢林
【 麻酔科 】	
6. わだ整形外科クリニック	和田誠
7. りんくう総合医療センター 麻酔科	米本紀子
8. あい整形外科リハビリクリニック	岡本賢俊
9. 春風川生野病院 麻酔科	岡田夏枝
10. 平成野田クリニック	田村幸一郎
11. 西星医院	西里枝久子
12. 関西医科大学 麻酔科	溝渕敦子
13. いもと整形外科	井本一彦
14. 丸岡医院	丸岡博史
15. ももたろう瘻みのクリニック	高原寛
【 救急科 】	
16. シミズクリニック	清水唯男
17. ペインクリニック 芦屋ピッコロ診療所	中村武人
18. 井上クリニック	井上隆弥
19. 原田リウマチ科整形外科	原田一孝
20. 坂館整形外科	三輪篤子
21. もりもと整形外科	森本佳秀
【 救急室 】	
22. 山田整形外科病院 麻酔科	小林則之
23. 岩本整形外科	岩本貴志
【 救急室 】	
24. かわたペインクリニック	河田圭司
【 救急室 】	
25. 等の浦リハビリテーションセンター	園部秀樹



モデル事業ホームページ

慢性疼痛診療体制構築モデル事業-近畿地区-

Home 当事業について 診療ネットワーク セミナー 質疑応答 関連リンク

本事業に多大なご協力いただいた先生方に深く感謝申しあげます。

慢性痛への新たな取り組みが必要です

慢性疼痛診療体制構築モデル事業

慢性痛に対する適切な診療

慢性痛は痛みに対して適切な治療ができていますか？慢性痛診療体制構築モデル事業では、適切な診療が受けられるようにつなぐことが実現しています。

慢性痛に関する情報提供

慢性痛は命を脅かす生活の質を著しく低下させてしまいます。適切な診療が受けられ、社会的参加が大きい。正しく痛みをコントロールする必要があります。

医療者の研修

慢性痛に対しては適切な診療が確立されていますが、国内では痛みを専門とする診療科が少なく、人材育成・研修体制が整っていません。

最新のお知らせ

2018.11.16更新	リハビリ療士慢性痛セミナーのアンケートをお見しました。 詳細は「セミナー」の「リハビリ療士慢性痛セミナー」へ
2018.10.19更新	市民公開講座のアンケートをお見しました。 詳細は「セミナー」の「市民公開講座」へ
2018.8.15更新	NPO福みうら 地域医療連携研修会を開催します 「福みうら」(PDF) 詳細は「セミナー」の「NPO福みうら 地域医療連携研修会」へ 臨床心療士慢性痛セミナーを開催します 「福みうら」(PDF) 詳細は「セミナー」の「臨床心療士慢性痛セミナー」へ
2018.8.9更新	リハビリ療士慢性痛セミナーを開催します 「福みうら」(PDF) 詳細は「セミナー」の「リハビリ療士慢性痛セミナー」へ 臨床心療士慢性痛セミナーを開催します 「福みうら」(PDF) 詳細は「セミナー」の「臨床心療士慢性痛セミナー」へ 第9回慢性痛の診療研究会を開催します 「福みうら」(PDF) 詳細は「セミナー」の「第9回慢性痛の診療研究会」へ

2. 産業界で発生する慢性疼痛診療連携事業（北原照代）

2020年度の取り組みのまとめ・今後の課題 -産業界で発生する慢性疼痛診療連携事業-

滋賀医科大学・社会医学講座・衛生学部門
(膳所診療所・職業病外来) 北原 照代



1. 取り組み

- 産業界や開業医を対象としたセミナーの開催
 - 滋賀県産業医会、大阪府保険医協会産業医対策委員会との共催
 - 参加者91名（滋賀会場28、大阪会場48、オンライン15）
- 診療連携を継続
 - 滋賀医科大学附属病院 学際的痛み治療センター 5例
 - 集学的治療を3例で実施
 - 終了した2例・・・いずれも、痛みの軽減、ROMの改善、筋硬結所見の改善などを認める
 - 奈良県の連携診療施設 1例（昨年度紹介、継続）

2. 今後の課題

- 連携治療における事前アセスメントと情報共有
 - 滋賀医大附属病院への紹介については事前カンファレンスが定着
 - 他との連携においては、今後WEBカンファレンスを用いた意見交換なども考慮
- 連携医療機関の拡大
- 慢性運動器疼痛患者の治療と仕事の両立支援における産業医との連携
 - セミナーの継続実施、内容の工夫
- 介護・看護における腰痛予防の取り組みのさらなる推進
 - 行政レベルの動きとの協働



3. 開業医とリハビリ療法士の慢性疼痛診療連携事業（田中浩一）

開業医・リハビリテーション療法士 慢性疼痛診療連携事業



◆今年度から開業医セミナーとリハビリ療法士セミナーを合同開催（開業医・リハビリテーション療法士セミナー）することになった。

◆セミナー参加者は開業医・機関病院医師・理学療法士・看護師など多職種にわたった。

◆新型コロナ禍において施設見学が困難であることを考慮して、セミナーでは実際の慢性痛患者への対応方法をイメージし易くするために、従来の講義方式ではなく診療シミュレーション動画を放映した上でディスカッション形式とした。シミュレーション動画はクリニックでの慢性痛患者と医療者との診療スタイルの例を示したものである。その結果、慢性痛治療への敷居が高いと感じている参加者に対して、患者へのアプローチのヒントを与えることが出来た。

◆昨年に引き続き、連携施設を対象にポスターを配布し、医療機関の待合室などでの掲示を行うことで、慢性痛に対する理解や適切な対処法の広報に努めた。

◆開業医に関わる幅広い領域の医療者の問題を共有できるとともに、リハビリ療法士や看護師などコメディカルへの教育やスキル向上の緒を掴むことが出来た。

◆医療の末端を担う開業医は、悩める慢性痛患者の終着駅と言われる。時間の制約のある医師のみならず理学療法士を筆頭としたコメディカル各々が治療の一端を担うことで、地域医療における慢性痛治療を成功に導くことになると思われる。

◆今後の課題として、更なるネットワーク構築を發展させたい。

【田中整形外科 田中浩一】

4. 心療内科による慢性疼痛診療連携事業（水野泰行）

事業報告 関西医科大学

- ・ モデル事業内の診療連携
 - － 他施設へ紹介:3例
 - － 他施設から紹介:6例(1例は九州ブロックから)
- ・ 痛みセンター設立:2020.4
 - － ペイン、心療内科、リハ科、頭痛外来の初診
 - － 整形外科、健康科学センター(予防医学)も参加
 - － 心療内科で56例(2020.5～2021.2):他院からの紹介64%(うち診療所39%)
- ・ 滋賀医大学際的痛みカンファレンスweb参加
- ・ セミナー開催
 - － 心と身体の痛みセミナー:企画代表 加藤文恵 先生(関西医大)
 - － 関西痛みの診療研究会:当番世話人 松岡弘道 先生(元近畿大学)

セミナー開催

- ・ 心と身体の痛みセミナー:2021.2.29(オンライン) 参加者 57名
テーマ:「発達障害と痛みー認知特性のある患者の訴えをどう扱うか」
講演:「発達障害を背景に持つ慢性疼痛患者の治療ポイント」
町田英世 先生(まちだクリニック)
一般演題 2演題
- ・ 関西痛みの診療研究会:2020.12.19(オンライン) 参加者 39名
特別講演「がん患者の非がん疼痛診療における注意点 ～心療内科医の視点から～」 酒井清裕 先生(近畿大学心療内科)
一般演題 5演題

5. 慢性疼痛に対する集学的診療推進事業（高橋紀代）

令和2年度 厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区 ～集学的診療～

令和2年度開催セミナー

令和2年度 厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-

慢性疼痛集学的診療セミナー

2020年10月17日(土) 14:00～17:00

場所:和歌山県立医科大学図書館3階 生涯研修センター
〒641-8609 和歌山県和歌山市東三軒381番地1 TEL:073-447-2300(代表)

14:00～14:10	和歌山での集学的診療セミナー開催にあたり	川原 知之 (和歌山県立医科大学副学長 教授)
14:10～14:20	①「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業」について	高橋 紀代 (和歌山県立医科大学医学部附属病院ペインクリニック 科医長)
14:20～14:50	②整形外科クリニックにおける慢性疼痛診療	中野 勝哉 (なかつが整形外科リハビリクリニック 院長)
14:50～15:20	③クリニックの慢性痛みリハビリテーション	高橋 紀代 (和歌山県立医科大学附属病院ペインクリニック 科医長)
15:30～16:00	④慢性疼痛に対する認知行動療法	安藤 友紀 (神戸大学大学院人間発達環境学研究所 心理学専攻)
16:00～16:30	⑤慢性疼痛に対する集学的診療	高橋 紀代 (和歌山県立医科大学附属病院ペインクリニック センター長)
16:30～16:50	⑥総合討論	川原 知之 (和歌山県立医科大学副学長 教授)
16:50～17:00	⑦総括	高橋 紀代 (和歌山県立医科大学副学長 教授)

総合司会:川原 知之
共催:和歌山県立医科大学図書館3階 生涯研修センター
後援:和歌山県医師会、和歌山市医師会、和歌山県、和歌山県、和歌山市(予定)

これまで

慢性疼痛を有する患者は、痛みの原因や影響が身体面のみならず、心理面、社会面と多岐にわたるため、治療もそれらの要素を踏まえた、多分野、多職種による治療介入をする集学的診療が望ましい。

市民公開講座 2018、19年 和歌山市にて開催し集学的診療を一般市民に広報してきた。

モデル事業が主催している各都府県で「集学的診療の実態」を調査し医師会に通知(2019年度5回)。

2020年3月には、第1回集学的診療セミナーを和歌山県にて開催予定であったが、コロナ禍のため、10月に延期となった。

令和2年度の成果

2020年10月17日 和歌山県立医科大学にてハイブリッド開催した。

参加者は会場23名、オンライン34名。医師、歯科医師をはじめ療法士、看護師、薬剤師など多職種であり、質疑応答も活発だった。

和歌山県内には集学的診療を提供している病院が少ないという現状があるため、このセミナーをきっかけに、医療連携により、集学的診療が治療の選択肢となることを期待する。

市民公開講座はコロナ禍により未開催。

今後の課題

1. すでに集学的診療を行っている医療機関のレベルアップ
2. 集学的診療を提供する医療連携のさらなる充実
3. 市民への集学的診療の啓発

6. 慢性頭痛の診療連携事業（竹島多賀夫）

社会医療法人 寿会
富永病院 脳神経内科・頭痛センター



【頭痛センター・本年度の取り組み】

- 集学的痛みセンター (B) 承認
- 年間約4000例の頭痛患者を診療
- 慢性難治性頭痛症例を大阪府下はじめ関西全域から広く受け入れ、外来および入院で診療。
- 関西医大心療内科より公認心理師の派遣を受け、入院・外来の慢性難治性頭痛患者に心理療法介入

心理士による介入

症例:	34名(外来8名、入院26名)
年齢:	平均37歳(±19歳、12歳～85歳)
性別:	男性12名、女性22名
診断:	慢性片頭痛(24%) 前兆のない片頭痛(18%) 新規発症持続性連日性頭痛(9%) 薬剤使用過多による頭痛・起立性調節障害(6%)
介入数:	1回のみ18名、複数回16名

18症例で複数回面接により、痛みの緩和、薬物以外の対処行動の獲得、対人交流の増進、ストレスへの気づきやコーピング獲得などの変化が認められた(成果の一部を第48回日本頭痛学会総会(2021年11月7-8日、筑波)で発表した)。

歯科医のためのHeadache Academy

大阪大学 石垣尚一教授との共同企画(2020年12月6日) オンライン開催



三叉神経・自律神経性頭痛(TACs)の診かたについてオンラインセミナーを開催した。歯科医師を中心に124名の聴講があった。歯科疾患との鑑別が重要な群発頭痛、発作性片側頭痛、持続性片側頭痛、SUNHA、口腔内灼熱症候群についての講演を行った。聴講者からのアンケートも好評であった。今後の歯科口腔領域と頭痛領域の連携の発展に繋がるセミナーを開催できた。

今後の課題

近畿地区における頭痛領域の集学的痛みセンターとして、地域医療機関との病診連携を行うとともに、ペインクリニック、心療内科、歯科、看護師、リハビリ、薬剤師などを含めた多職種と連携して集学的治療のさらなるレベル向上に努める。

頭痛領域における慢性疼痛診療向上のために多施設共同研究を含めた臨床研究の推進を図るとともに、教育事業にも力を入れる。

7. インターベンション治療の診療連携事業（松田陽一）

インターベンション治療の診療連携事業 令和2年度の活動

慢性痛診療連携セミナー“非専門家に知ってほしいインターベンショナル痛み治療”

開催日時、方式：2021年2月27日、Web開催

対象：他職種（特に整形外科医、内科医）

近畿地区各府県の臨床整形外科医会に広報

内容：インターベンショナル痛み治療の出来ること

腰下肢痛治療

肩・膝関節痛治療

高齢者に取り入れる利点

参加者：29名：整形外科医、内科医、歯科医、

麻酔科・ペインクリニック医、看護師、作業療法士



8. 歯科・口腔外科の診療連携事業（石垣尚一）

令和2年度 厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区 大阪大学歯学部附属病院（口腔補綴科）

- 厚生労働省慢性疼痛モデル事業 歯科部門プロジェクトを担当
 - 診療体制構築（2018）
 - 痛みセンター設立（2019）
 - 慢性疼痛診療システム普及・人材養成（2020）
- 公益社団法人日本補綴歯科学会、一般社団法人日本口腔顔面痛学会、一般社団法人日本顎関節学会、および公益社団法人日本口腔インプラント学会の認定研修施設
- 疼痛分野に関しては、口腔顔面痛指導医1名、および専門医1名が在籍
- 歯科口腔領域の慢性痛患者が多数の医療機関を受診したのちに来院する病院であり、難治性の口腔顔面痛患者の外来診療を担当
- 平成29～令和2年度は、口腔顔面痛の専門医療機関として、大阪大学医学部附属病院をはじめいくつかの施設と連携して口腔顔面痛領域の慢性痛患者の治療を担当
- 令和2年度は、頭痛部門プロジェクトとの合同セミナー1回、歯科セミナー1回の計2回のセミナーを開催
- 今後の課題
 - 近畿地区における連携診療機関（歯科・口腔外科）の確保
 - 大阪大学歯学部附属歯科補綴科 連携予定
 - 大阪歯科大学附属病院 歯科麻酔科 連携予定
 今後も日本口腔顔面痛学会の認定研修施設など、追加を予定

令和2年度開催セミナー

- 歯科医のためのHeadache Academy
—三叉神経・自律神経性頭痛（TACs）の診かた—
（頭痛部門プロジェクトとの合同開催）
 - 2020年12月6日 13:00-16:00、オンライン、127名参加
 - 講師・登壇
 - 石垣尚一（大阪大学歯学部口腔補綴科）
 - 今井 聖（京都府立医科大学）
 - 栗林成典（奈良県立医科大学）
 - 高野和典（京都大学歯学部歯科補綴科）
 - 高田 誠（大阪府立中央病院）
 - 井田 幸（神戸市立中央病院）
 - 吉野公輔（大阪府立中央病院）
 - 高田 誠（京都府立中央病院）
 - 石垣尚一（大阪大学歯学部口腔補綴科）
- 歯科・口腔外科領域における痛みのとらえ方と美学的診療の必要性
 - 2021年2月7日 14:00-17:00、オンライン、101名参加
 - 講師・登壇
 - 今井 聖（京都府立中央病院）
 - 高野和典（奈良県立医科大学）
 - 石垣尚一（大阪大学歯学部口腔補綴科）
 - 高田 誠（大阪府立中央病院）
 - 井田 幸（神戸市立中央病院）
 - 吉野公輔（大阪府立中央病院）
 - 石垣尚一（大阪大学歯学部口腔補綴科）

9. 地域医療介護連携事業（中塚映政）

令和2年度 厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区 ～地域医療介護連携～

令和2年度開催セミナー

令和2年度厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-

地域医療介護連携セミナー

日時 2021年1月30日(土)16:00～18:00

場所 オンライン開催 (zoom) のみに変更

タイムスケジュール

16:00～16:10 ①「慢性疼痛診療システム普及モデル事業」について
福井 聖(滋賀医科大学医学部附属病院 病院教授)

16:10～16:40 ②在宅医療における慢性疼痛患者
岡山 容子(おかの在宅クリニック院長)

16:40～17:00 ③訪問看護における痛みに対する医療的ケアの実際
岡田 真子(真友会訪問看護ステーション 看護師)
高橋 紀代(真友会在宅医療センター 医師)

17:00～17:20 ④慢性痛を有する訪問リハビリ利用者の現状
嶋尾 彰人(真友会リハビリテーションクリニック 理学療法士)

17:20～17:40 ⑤デイケア施設における慢性疼痛対策
中塚 映政(なかつか整形外科リハビリクリニック 院長)

17:40～17:55 ⑥総会討論 司会 中塚 映政

17:55～18:00 ⑦閉会 奥田 政彦(奈良学園大学保健医療学部 教授)

お申込み

慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業
近畿地区ホームページ
URL: <http://journal.nsl-hhl.com/0101.html>
またはお申込みフォームより

会場：大阪府、大阪市、滋賀県、大塚府医師会

令和2年度の成果

本邦の要介護要支援認定者数は年々増加して平成30年度の厚生労働省による介護事業状況報告書では658万人と報告され、保険給付費用額は10兆4319円に達している。要介護要支援になった主な原因は、運動器疾患・認知症・脳血管障害・高齢による衰弱の順に多い。運動器疾患が原因であった要介護要支援認定者の多くは慢性疼痛を有しており、慢性疼痛を起点としてロコモティブ・フレイル・サルコペニアを合併していることが指摘されている。「高齢者の痛み」に関する認識の過激として、「痛みは高齢におけるごく普通のことである。」「患者が痛みを報告しないときには痛みは存在しない。」など誤った理解がなされている。高齢者に関わる全ての人々は、高齢者の特徴と慢性疼痛の基礎的な理解を持ち、生活者としての視点を視野に入れ、より良い医療・介護を目指して関わることが求められる。本モデル事業では地域医療介護連携のために医師・看護師・理学療法士だけでなく、介護地域包括の職員・ケアマネージャー・介護士にもセミナーにも参加頂き、要介護要支援認定者における慢性疼痛の問題点を提起するとともに運動療法や心理的アプローチを加えた慢性疼痛対策について情報共有する場を提供した。

今後の課題

セミナー参加者のアンケート調査から以下の課題を指摘された。来年度以降にこれらの課題を解決するように努めたい。

- 慢性疼痛の患者様に対してコミュニケーションで気をつけることを教えて欲しい。
- 膝痛・腰痛があるが年なので仕方がないと言われ、何と声かけてよいか分からない。
- 腰痛・膝痛で動けないために生活の阻害要因となっている。
- 痛みによる活動量低下や意欲低下の克服法が分からない。
- 痛みに一貫性のない患者様に対しての対処法が分からない。
- 臨床所見では原因不明の痛みに対してどうように対処すべきかわからない。
- 不安や恐怖からの痛みが結構多いがこれに対する治療方法があまり述べられていない。
- 在宅診療と病院連携はどのようになっているのでしょうか？
- 臨床所見と訴えがかみあっていない時に原因が分からず困ることがある。
- 慢性疼痛患者の診療に十分な時間が割けられない。
- 在宅ターミナルケアにおいて心と身体のケアが必要な方が多い。

令和2年度
厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 ―近畿地区―
報 告 書

令和3年3月発行

編集・発行

【厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 ―近畿地区― 事務局】

滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科内

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

Mail: pain@belle.shiga-med.ac.jp